

第4学年 国語科学習指導案

い組 男子19名 女子19名 計38名

指導者 古園 正樹

1 単元 読んで、自分の考えをまとめよう(教材「大きな力を出す」「動いて、考えて、また動く」光村4年上)

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

この期の子どもたちは、これまでに第3学年「読んで、かんそうをもとう」の学習で、文章全体の構成「はじめ」「中」「おわり」を把握し、段落について知るとともに、段落の内容をとらえる能力を身に付けてきている。また、「せつめいのしかたを考えよう」の学習で、中心となる語や文をとらえ、段落相互の関係を考え、文章の構成を理解しながら読もうとする態度も身に付けてきている。さらに、文章の構成を考えながら読み物を読んだり、自分で意見文や説明文を書いて考えを伝えたりしたいという願いをもっている。

そこで本単元では、筆者の考えを読み取るために、要点から段落相互の関係をとりえる能力や筆者の考えについて、自分の経験や知識を基に、考えたことをまとめようとする態度を身に付けさせたいと考え、単元「読んで、自分の考えをまとめよう」(教材「大きな力を出す」「動いて、考えて、また動く」)を設定した。

この学習は、段落相互の関係を考え、文章全体における段落の役割について考えたり、説明の工夫について考えて説明する文章を書いて相手に分かりやすく伝えようとしたりする「説明の仕方について考えよう」における段落の役割について考えたり、説明の工夫について「説明のしかたについて考えよう」の学習へと発展するものである。

(2) 指導の基本的な立場

教材「大きな力を出す」は、呼吸と筋肉の関係性について具体的な例示をしながら述べている説明文である。また、教材「動いて、考えて、また動く」は、身体を動かし、自分自身を見つめ直すことで目標を達成できるということについて筆者の体験を基に述べている説明文である。人間の身体を題材とする両教材は、成長する身体に興味をもつこの期の子どもたちに適した教材である。また、両教材共に、「はじめ」「中」「おわり」で構成された双括型の説明的文章で、「中」の部分は、事実と筆者の意見による説明が具体的にまとめられており、文章構成がつかみやすく、事実と説明を区別しながら自分の考えを分かりやすくまとめることを学ぶのにも適した教材と言える。

そこで本単元では、筆者の考えに対する自分の考えを意見としてもつことを単元を貫く言語活動とし、教材「大きな力を出す」で双括型の説明的文章の構成を理解し、そのことを踏まえて教材「動いて、考えて、また動く」で筆者が自分の考えを説明するためにどのような工夫をしているかを解き明かしていく。

具体的には、まず、試し作りとして教材「動いて、考えて、また動く」を読ませ、筆者の考えに対する自分の考えをまとめた意見文を書かせ、自分なりによく書けたところと書けなかったことについて整理させ、課題意識をもたせ、学習の見通しをもたせる。

次に、教材「大きな力を出す」について、接続語や指示語、文末表現に着目させながら各段落の要点をとらえさせて、文章の構成をとらえて筆者の考えを読み取る視点と筆者の考えに対する自分の考えをもつための視点に気付かせる。それらの視点を基に、教材「動いて、考えて、また動く」を読み取らせ、筆者に対する自分の考えを意見文として再度まとめさせる。その際、友達同士で学び合わせることで、自分の考えを深化・拡充させる。

さらに、終末段階では、試し作りでまとめた意見文と見直しの文を比較させ、事実と説明を区別して文章の構成を考えながら読むことで筆者の考えがとらえやすくなり、自分なりの考えがもてるようになったことを実感させる。

このような学習を通して得られる能力や態度は、読み取った筆者の考えと自分の考えとを比較させて考える能力や、それを分かりやすく伝えようとする態度へと結び付いていくものである。

(3) 子どもの実態

本学級の子どもたちが、本単元の学習や本教材に対して、どのような興味や関心をもっているかを調査した結果は、次のとおりである。(数字は、人数を表す)(複数回答)

①「動いて、考えて、また動く」の初発の感想	
・走り方への理解の深まり(15) ・自分の走りに生かしたい(3) ・要旨の理解(16) ・筆者の経験に対する驚き(5)	
②「大きな力を出す」の文章構成の理解	③「動いて、考えて、また動く」の文章構成の理解
○理解している(27) ・「はじめ」「中」「おわり」を理解している(22) ・事実と説明の関係に気付いている(2) ・双括型の文章に気付いている(3) ▲理解が不十分(11)	○理解している(10) ・「はじめ」「中」「おわり」を理解している(3) ・事実と説明の関係に気付いている(7) ・双括型の文章に気付いている(0) ▲理解が不十分(27)
④筆者の考えを読み取り、自分の考えをまとめることへの関心	
関心がある(23) 【理由】・筆者の考えを知りたい(13) ・深く考えることができる(6) ・自分の考えを自由に書ける(5) ・読むこと、書くことが好き(2) ・新たな発見があるから(1) ・ほめられるとうれしい(1)	関心がない(14) 【理由】・難しい(9) ・時間がかかる(2) ・何を書けばいいかわからない(2) ・物語のほうが好き(1)

子どもたちは、教材文の内容に興味・関心をもっている。しかし、速く走るための方法に目が向いている子どもが多く、筆者の考えに感想をもった子どもは少ない。また、文章の内容面に着目する子どもが多く、段落の相互関係や文章構成の分析など、形式面に気付いている子どもは少ない。(①)これは、これまでの学習で形式面に着目した読み取りの経験が十分ではないためであると考えられる。「大きな力を出す」の文章構成の理解については、過半数の子どもが「はじめ」「中」「おわり」の構成に気付いている。(②)しかし、「動いて、考えて、また動く」については、ほとんどの子どもが把握できなかった。これは、文章が長くなることで段落相互の関係が複雑になったためであると考えられる。事実と説明の関係に気付いている子どもはわずかながらいた。(③)

また、これまでの学習経験から、筆者の考えを読み取ることのおもしろさ、自分の考えを書くことの楽しさを感じている子どもが多い。一方で、何を書いたらいいのかが分からず、書くことに抵抗を感じている子どももいる。(④)

(4) 指導上の留意点

以上のことから、指導に当たっては、子どもたちが文章の構成をとらえ、筆者の考えについて自分の考えをまとめることができるように、学習内容の設定や指導方法を次のように工夫することが大切である。その際、**自分の考えを積極的に発言したくなるような話合いの場面を設定し、伝え合う過程で友達の思いや考えと比較・関係付けすることを通して、自分の強固・付加・修正された思いや考えを深めたり広げたりできるようにする。**

ア 筆者の考えを読み取り、自分の考えをもつことに目を向けさせるために、子どもの生活経験と結び付けた陸上競技の話をしたり、筆者の経歴を紹介したりして、必要感をもたせた単元の目標を設定させる。

イ 文末表現に着目させながら各段落の要点をとらえさせて文章の構成をとらえて筆者の考えを読み取る視点と筆者の考えに対する自分の考えをもつための視点をとらえさせるために、最初に「大きな力を出す」を読ませる。その際、文末表現を手掛かりとしながら「はじめ」「中」「おわり」の構成や事実と説明が繰り返されていることをとらえさせる。さらに、「動いて、考えて、また動く」を読ませることで、学んだ観点が、筆者の考えを読み解く際に有効であることに気付かせる。

ウ 自分の読み深め方を振り返らせるために、試し作りと見直しの意見文とを比較させたり、友達同士で交流させたりすることで、自分の学習の成果に気付かせる。また、本単元の学習が今後の他教科等の学習や日常生活で生かされることを話し合わせることで、学習の有用感や学ぶ喜びを味わわせたりする。

3 目標

- (1) 動いて考えることに関心をもち、筆者の考えを読み取るために、事実と説明の関係をとらえて、段落相互の関係を考えようとするができる。
- (2) 文章を読んで考えたことを発表し合い、友達の考えと比較して意見を述べ合い、感じ方の違いに気付くことができる。
- (3) 要点や説明の仕方の工夫に注意しながら読み、必要に応じて引用したり要約したりし、筆者の考えに対する自分の考えを伝えることができる。

4 指導計画（全12時間）

過程	思いを連続・発展させる心の高まり	学習課題・学習内容の構造・主な学習活動	教師の具体的な働きかけ
つかむ・みとおす③	筆者は陸上競技で実績を残した人だけど、どのような経験してきたのだろう。	1～2 教材との出会い・試し作り・課題解決の見通し 「動いて、考えて、また動く」を読んで、自分の考えをまとめよう。 ・生活経験や陸上競技の話 ・筆者の経歴の紹介 ・自分の考えをまとめる（試し作り） ・単元の目標設定、学習計画の立案	○ 単元や教材への興味・関心や課題意識を高めさせるために、生活経験と関連させながら筆者の経歴を紹介する。 ○ 学習に対する必要感をもたせるために、筆者の考えに対する自分の考えをまとめる試し作りをさせ、うまくいったこととうまくいかなかったことから、学習課題を明確化する。
	自分の考えをまとめるには、どのように読めばよいのだろう。	自分の考えをまとめるために、説明的文章はどのように読めばよいのだろうか。	○ 筆者の考えを読み取る視点とそれに対する自分の考えをもつための視点をとらえさせるために、2つの教材文を基に学習し、学んだことを比較させる。
	文章の構成をはっきりさせて読むと、筆者の考えが分かりやすいな。	3～4 限定された場面での試行錯誤 『大きな力を出す』は、どのように書かれているだろうか ・要点 ・文章の構成 ・事実と説明 ・筆者の考えに対する自分の考えをまとめる。	○ 各段落の要点や文章の構成について考えさせるために、「大きな力を出す」で接続語、指示語の役割、文末表現などに着目しながら段落の並び替えをさせる活動を取り入れる。
しらべる・ふかめる⑦	「中」の段落には事実と説明が書かれているぞ。	5～10 広い場面での試行錯誤 『動いて、考えて、また動く』を読んで、自分の考えをまとめよう ・各段落の要点 ・大まかな文章の構成 ・「中」の事実と説明 ・筆者の考えに対する自分の考えをまとめ	○ 筆者の考えを理解させるために、事実と説明で書かれている箇所があることに気付かせる。
	「大きな力を出す」と同じ文章の構成になっているから筆者の考えが分かりやすいぞ。	11 試行（試し作り）の見直し（本時） 「試し作りと学習後の意見文を比べたり、友達と交流したりしよう。」 ・試し作りと見直しの比較と交流 ・自分の考えのまとめ方の成果	○ 自分の考えを深化・拡充させるために、ひとみ学習を取り入れ、互いの考えを2つの視点で比較・関係付けさせる。
	読み方や自分の考えのまとめ方が分かったよ。みんなとの交流で自分の考えのまとめ方に自信がもてたぞ。	事実と説明の関係に気を付けながら要点や文章の構成をとらえることで筆者の考えを読み取り、自分の経験や知識と照らし合わせて考えたことをまとめる。	○ 本単元の学習を価値付け、今後の学習に生かすために、日常生活や他教科等で活用できそうな場面を話し合わせる。
ふりかえる・いかす②	いろいろな学習や日常生活で学んだことを生かしていきたいな。	12 活用場面の想起 ・他の説明的文章を読む。 ・他の説明的文章について、自分の考えを書く。	

5 本 時（11／12）

（1）目 標

筆者の考えに対する自分の考えを、試し作りと見直しの意見文を比較したり、自分と友達の考えを比較したりして、文章の構成をとらえて筆者の考えを読み取る観点と筆者の考えに対する自分の考えをもつための観点について整理し、まとめることができる。

（2）本時の展開に当たって

筆者の考えを読み取る観点とそれに対する自分の考えをもつための観点を明確にさせるために、内容についてだけでなく、観点に基づいた内容の根拠を比較させることで、そのよさについて実感させる。さらに、終末段階では、身に付ける考え方を発揮することができた子どもを称賛・価値付け、学び合うよさについて気付かせる。

（3）実際

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ				
つかむ・みとおす	1 本時の学習課題を設定する。 (1) 前時の学習を振り返る。 (2) 学習課題を設定する。 自分の意見を見直し、筆者の考えの読み方とそれに対する自分の考えの持ち方をまとめよう。 2 課題解決の見通しをもつ。 3 自己評価や相互評価を行い、変容の要因について考える。 試し作りと比べると自分の考えがよくまとまっていると思う。どんな読み方やまとめ方ができるようになったのかな。 ひ ひ と み 他者との比較 筆者の考えの読み方 筆者は走り方を工夫した経験を述べながら、走り方のメカニズムを説明しているよ。 「事実と説明」の観点 〇〇さんは、筆者の考えを「はじめ」「終わり」の両方から読み取っているな。 「双括型」の観点 自分の考えの持ち方 筆者の考えに共感する。ぼくが自転車に乗れるようになったため、何回も失敗を繰り返した経験が、似ているからだよ。 「自分の経験」の観点 プロ野球選手が毎日投げたり打ったりする練習を繰り返して、上達することにできているね。 「自分の知識」の観点	(分) 7 28	○ 課題意識をもたせるために、本時は本単元のまとめの時間であることを確認し、学習計画表で本単元のめあてを意識させるような振り返りをさせる。 ○ 見通しをもって主体的に学習させるために、ひとみ学習で自分の考えをより確かなものにしていく学習の進め方を確認する。 ○ 学びのよさを実感させるために、試し作りと見直しの意見文を多様な観点で比較させ、明確な観点をもつことによって文章の内容が質的に変容していることに気付かせる。 ○ 筆者の意見に対する自分の考えを深めさせたり広げさせたりするために、友達との交流活動の際、お互いの考えの根拠同士を筆者の考えの読み方の観点と自分の考えの持ち方の観点で比較させ、その共通点や相違点について考えさせる。				
	しらべる・ふかめる	ひ 交流活動を通しての個人の考えのまとめ <table><tr><td>筆者の考えの読み方</td><td>「事実と説明」をとらえながら段落構成を考えるとよい。</td></tr><tr><td>自分の考えの持ち方</td><td>「自分の経験や知識」を基にしながら筆者の考えと重ねて考えるとよい。</td></tr></table> 4 本時のまとめをする。 事実と説明で段落構成をとらえれば筆者の考えは読み取ることができ、筆者の考えを自分の経験や知識と重ねれば自分の考えをもつことができる。 5 本時の学習を振り返り、自分や友達のよかったところを話し合う。 〇〇さんが言っていた読みの観点は、ぼくも大切だと思った。違う文章を読むときにも、同じようにしてみたいな。	筆者の考えの読み方	「事実と説明」をとらえながら段落構成を考えるとよい。	自分の考えの持ち方	「自分の経験や知識」を基にしながら筆者の考えと重ねて考えるとよい。	10
筆者の考えの読み方	「事実と説明」をとらえながら段落構成を考えるとよい。						
自分の考えの持ち方	「自分の経験や知識」を基にしながら筆者の考えと重ねて考えるとよい。						
ふりかえる・いかす							